

## I 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色

### 1. 千葉工業大学の建学の精神

本学の建学の精神は次のとおりである。

#### 【建学の精神】

**師弟同行：きめ細やかな指導体制（教員と学生が一体となって学問に携わる）**

**自学自律：創造性豊かな人材の育成（自ら学び・思索し・創造し・解決する力を養う）**

本学は昭和 17（1942）年に創立し、私立工業単科大学として我が国で最も歴史が古い大学のひとつで 66 年の伝統を誇る。設立の趣旨を『志操堅固、学理及び技術に優秀なる工業人材の育成』とし、新国士の養成（愛国心・好学心を兼備し、国家を担ぎ世界文化に尽くし得る人間）、全人教育（自ら学び体験し思索し創造して真の納力を体得せしめ、困難に遭遇するも正しきを実現せんとする活動力ある人物）、労作教育（百見は一労作に如かず。自学自律・自啓自発の教育）、塾教育（師弟同行・師弟共生の教育）を掲げた。

当時、掲げられた教育の理念は、「師弟同行」「自学自律」というかたちで現在も建学の精神として受け継がれている。

### 2. 使命・目的・教育目標

本学では、建学の精神を踏まえ、次の教育目的を定めている。

#### 【教育目的】

**教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成すること。**

科学技術の変化に対応し著しい発展をリードしていくには、基礎学力や教養に基づいた、自立性やコミュニケーション能力の向上が欠かせない。本学では建学の精神に則り、上記の教育目的を達成するために以下の実践的な教育目標を定めている。

#### 【教育目標】

**科学技術の厳しい変化に対応できるしっかりした基礎学力を持つ学生〔人材〕の育成**

さらに建学の精神に則り、教育目的・教育目標を実現し学生一人ひとりに対する教育の付加価値を高めるために、以下の 7 つの教育指針を共有し実践している。これらの教育指針に基づき、本学教職員は継続的な教育力の向上と改善に努めている。

#### 【教育指針】

1. 豊かな教養と人格を備えた人材を育成するための教養教育
2. 変化する科学技術に柔軟に対応するための専門基礎教育
3. 創造性豊かな人材を育成するための実践・体験教育
4. 工学・技術に夢を持ち続け、自分の将来像が描けるキャリア教育
5. 学生に対して面倒見のよい大学

## 6. 学生同士のコミュニケーションを育む大学

## 7. 社会と密接な関係を築いていく大学

本学は3つの学部・10の学科を有する工科系大学である。各学部は以上の建学の精神・教育目的・教育目標・教育指針を共有している。また、各学部ではそれぞれの専門性に応じたより具体的な人材養成のための教育目的を定め、各学科ではそれらを受けて具体的な教育目標を定めている（詳しくは基準3-1-①に示す）。

大学院においては、建学の精神に則り、学部の教育目標である「科学技術の厳しい変化に対応できるしっかりした基礎学力」を確実なものとしたうえで、以下の教育目的を定めている。

### 【大学院の教育目的】

**工学における理論及び応用を教授・研究し、その深奥を極めて、文化の進展に寄与すること。**

大学院は3つの研究科・8つの専攻を有する。各研究科は、建学の精神と大学院の教育目的を共有している。また、各研究科はそれぞれの専門性に応じたより具体的な人材養成のための教育目的を定め、各専攻ではそれを受けて教育目標を定めている（詳しくは基準3-1-①に示す）。

## 3. 本学の個性・特色

本学は、建学の精神に基づく教育目的の達成を目指し、教育研究・社会貢献活動の向上を図り、常に自らを省みて新たな方向性と方策を講じ、知の拠点として新しい価値創造と人材養成を目指している。

本学は、個性・特色等として、次の2つの機能に主軸を置いている。

### (1) 幅広い職業人の養成

- ・ わが国の文化・産業を担う技術者として、豊かな教養を備え人類福祉のために進んで協力する意欲と識見をもつ人材の養成
- ・ 工学・技術に夢を持ち続け、自分の将来像が描けるキャリア教育
- ・ 基礎学力の養成
- ・ 問題解決能力・課題探究能力をもち、社会の変化に対応できる職業人の養成
- ・ JABEE(日本技術者教育認定機構)プログラムの全学での導入準備（技術者教育）
- ・ 教育研究環境の充実（キャンパス整備、研究・実験環境整備）

### (2) 社会貢献機能（地域貢献、産官学民連携等）

- ・ 高い倫理観と社会貢献精神の育成（JABEEプログラム導入を契機として）
- ・ 産官学民連携による地域の企業・行政・市民との連携強化及びそれらを通じた実践教育
- ・ 公開講座、各種出前講座の実施等による多様な学習機会の提供
- ・ 地域の市民に対する大学施設の開放
- ・ 高校・大学連携による地域の高等教育の拠点
- ・ 地域貢献プログラム（現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）採択）の定着化促進

なお、この 2 つの主軸を堅持しながら、大学院教育と教育研究環境を充実させた「高度専門職業人養成」を副次的な目標としている。

#### 4. 教育指針に沿った主な教育研究の取り組み

本学では、教育に主眼を置き、近年、様々なかたちで教育研究の改善・改革を進めてきた。以下に 7 つの教育指針別に、本学の主要な取り組みを示す。

##### ①豊かな教養と人格を備えた人材を育成するための教養教育

- ・ 教養教育・専門基礎教育の組織である教育センターを推進母体として、全学共通の教養教育を実施している。卒業単位として教養科目 30 単位以上の取得を義務化している。
- ・ 多様な入試体制に対応し、入学直後にプレースメントテスト（英語・数学・物理・化学）を実施し、学生個々の学習状況により習熟度別の授業運営を実施している。また、推薦入学者に対しては、入学前準備プログラムを実施している。
- ・ 入学者の学力不足を補うため、学習支援センターを設置し、専属の教員を配置して数学・物理・化学の自主的な学習を支援している。e-Learning を利用した数学・物理・化学の自己学習支援環境を強化している。
- ・ 数学・物理・化学の各プレ科目を配置しリメディアル教育を強化している。これらの授業は自習と演習を多く取り入れ、自ら学ぶ習慣が身につくように工夫している。さらに、全学において「教養の数学」「教養の物理」「教養の化学」を必修化し、「工科系」の基礎となる理数系教養科目の徹底した教育体制を整えている。
- ・ 教養科目として「総合資格英語 1・2」を開講し、併せて受講料金援助制度を用意している。また、学内で TOEIC（国際コミュニケーション英語能力テスト）が受験できる団体特別受験制度を設け、英語学習の動機付けを行っている。

##### ②変化する科学技術に柔軟に対応するための専門基礎教育

- ・ 卒業単位としての専門基礎及び基幹科目の単位取得を義務化している。基礎実験や基礎的な演習科目を充実させ、科目を絞った必修化を行っている。
- ・ 3 学部の特徴に合わせた専門基礎科目を開講している。これにより各学部の基礎概念を演習と合わせて学ぶことができる。
- ・ 基幹科目の必須科目では習熟度別のクラス編成を進め、確実な学修を目指している。専門の指定科目においても習熟度別教育の実施に努めている。
- ・ 第一線の技術者や企業研究者を講師とした外部講師による特別講義や、専任教員が担当する講義において、講義の一部に外部講師によるトピックスを盛り込むことができる講義内特別講義を実施している。
- ・ 千葉県内の各分野の私立大学（短期大学含む）との単位互換、工学部における千葉大学工学部との単位互換、放送大学の単位認定（各学科で認定単位を指定）等の制度があり、必要に応じて他大学の講義の受講が可能となっている。こうした提携校の単位や外部資格も認定対象としている。

##### ③創造性豊かな人材を育成するための実践・体験教育

- ・ すべての学部学科において、演習・実験を重視している。演習・実験科目においては演習内容に応じたクラス編成を行っている。高学年ではゼミ形式の講義や演習

が行われている。

- ・ 卒業研究は全学科で必修となっている。卒業研究を通してそれぞれの専門を実践的に学ぶことができ、グループ単位の実験・調査や研究発表会などによりコミュニケーションスキルやプレゼンテーション能力などを高めることができる。
- ・ 学生が実際に「ものづくり」体験ができるよう、津田沼キャンパスには「工作センター」、芝園キャンパスには「学生自由工作室」を設置している。両施設にはそれぞれ専任のスタッフが常駐するとともに、様々な加工機器・機械を整備している。これらの施設は、授業以外でも自主的に利用できる。
- ・ 早期に学習や研究の動機付けとなる講義を行っている。また、世界的な建築家を招いたワークショップの開催（建築都市環境学科）、ロボットを使つての競技会と講評会（機械サイエンス学科）、Web教材コンテスト（情報科学部）、学生研究発表会（デザイン科学科）等、各学科により工夫された演習やプログラムを実施している。
- ・ 各学科の独自の工夫で、工場見学・企業やNPO等での実習等を進めている。それらを科目の一つとしている学科もある。なお、キャリアセンターではインターンシップ支援（長期休暇中）を実施している。

#### ④工学・技術に夢をもち続け自分の将来像が描けるキャリア教育

- ・ 学生自身の生き方を考えるきっかけ、動機付けを与えるキャリア教育の推進、学生のキャリアプラン構築へのサポート等、キャリアデザインや就職支援を推進するキャリアセンターを設置し、キャリアアドバイザーを配置している。また、各学科に就職担当教員（クラス担任が兼務）を配置し、就職委員会と連携している。
- ・ キャリアセンターでは、学生一人ひとりの希望をかなえるため、1年次から4年次まで、きめ細かいキャリアプログラムを実施している。
- ・ キャリア教育の一環となる「進路を考える」「自己表現法」の開講、各種講座の開講（TOEIC講座、公務員対策講座、建築VE(Value Engineering)基礎講座、SPI(職業適性検査)対策講座)などを含め、年間214回の各種講座や講演会を実施している。また、学生が卒業生からアドバイスを得る機会（OB・OG懇談会）、社会で活躍するOBや各分野の第一線の講師を招いた特別講義を実施している。
- ・ 就職支援サービスのためのWebシステム(「求人Navi」)が整備され、求人情報の検索や求人票閲覧、先輩の就職活動体験記など、就職関連情報をPCや携帯電話から得ることができる。
- ・ 人工衛星プロジェクト・ロボット関連プロジェクト等の先端技術や先端研究のプロジェクトに学生を積極的に受け入れている。また、情報工学科では三菱総研・河合塾から国内大学のIT技術者教育の格付けとして「A+」を取得している。
- ・ 毎年、就職委員会をはじめとする就職支援関連の教職員と企業関係者300人以上が一堂に会し、学生への就職支援の一環として産学懇談会を開催している。
- ・ 教育職員養成課程を充実させ、学科の特徴に合わせ「数学」「理科」「工業」「情報」「商業」等の教職免許が習得できるようになっている。

#### ⑤学生に対して面倒見のよい大学

- ・ 新入生を対象に千葉工業大学の歴史や建学の精神、教育目標などを学長講話として実施し、本学の伝統と誇り、大学で学ぶ意義を伝えている。入学直後に導入教育

の一環として充実したオリエンテーションを実施し、授業の受け方、学習への取り組み、レポートの書き方、履修計画の作成等を指導している。

- ・ 新入生及び2年生の履修不調者に対し、大学生活の不安を解消するため教員が1人あたり新入生10人程度を担当し、様々な相談を受けたりコミュニケーションの場とする修学支援制度を実施している。
- ・ クラス担任制（就職担当兼務）を実施している。学生はコミュニケーションシートを提出し、担任は必要に応じて学生と連絡をとる。また、すべての教員はオフィスアワーを明示し学生の相談等にあたる。
- ・ 学生生活の相談窓口として学生相談室を設置するとともに、津田沼・芝園の両キャンパスに臨床心理士の資格を持つカウンセラーを配置している。また、学生や保護者を対象として、電話や面接によるカウンセリングや健康医療相談、優秀専門医の手配・紹介を行なう「メンタルヘルスサポートシステム」及び「ドクターオブドクターズネットワーク」を導入している。
- ・ 各学科では履修モデルを提示し、履修相談窓口として教務相談室を開設している。学内及び自宅のパソコンからWebを利用した履修登録及びシラバスのチェックが可能である。また、休講・教室変更・お知らせ等の情報をWeb及び携帯電話でチェックすることができる。
- ・ PPA(Parents and Professors Association：保護者と教職員の会)組織による学習支援・文化事業・学生の海外渡航援助等を行っている。毎年9月には教職員が全国各地に出向き、保護者との個人面談を実施している。また、学生の互助組織として学生共済会を設置している。これには、学資の支援として各種奨学金制度の他、本学独自の奨学金制度がある。
- ・ 授業満足度調査の結果を集計・分析し、 Semesterごとに集計結果を取りまとめ全教員に配布している。外部調査会社に結果の分析を依頼し、教育改革の方向性を示唆するかたちで全教職員を対象に報告会を実施し、学生指導に生かしている。
- ・ 授業満足度調査の結果を受けて、全教員が担当科目ごとに授業改善点検書を作成し、それをFD(Faculty Development)推進委員会が分析し、その結果を全教員に配布し、各教員はそれを各々の授業改善に役立てている。
- ・ FD活動を加速させるために、学部のFD推進委員会・大学院の大学院FD委員会に加え、FD活動を一元的・効率的に協議する場としてFD協議会を設置している。
- ・ 学寮委員会を組織し、担当教員を中心に学生寮における集団生活を通じた人格形成の場を支援している。また、学生が課外活動を通じて社会性を培っていけるよう、学生自治会や部活動を教職員が支援している。

#### ⑥学生同士のコミュニケーションを育む大学

- ・ 学生寮を設置し、現在約300人の男子学生が集団生活を行っている。津田沼・芝園両キャンパスへは無料のスクールバスで送迎している。集団生活を通じて協調性やコミュニケーション力の向上に役立っている。
- ・ 学生の居場所として、津田沼・芝園の両キャンパスに自習室や談話コーナー等を配置している。芝園の学生自由工作室や津田沼の工作センターも、「ものづくり」を通じた学生のコミュニケーションの場として活用されている。

- ・ 大学院学生は TA（ティーチングアシスタント）として演習科目を中心に授業のサポートを行っている。TA 活動により大学院生と学部学生との縦のつながりができている。
- ・ 学生主体の課外活動やクラブ活動、「津田沼祭（大学祭）」・「文化の祭典」・「寮祭」・「成田山詣行脚」・「スポーツフェスティバル」等、多様な行事による学生相互のコミュニケーションと人格形成の場づくりを支援している。
- ・ 学生や教職員の研修施設として、長野県軽井沢町、千葉県飯岡町、千葉県御宿町に研修センターを設置し、研究室のゼミやクラブ活動等に利用している。現在、津田沼キャンパスに建設されている高層棟の最上階は学生向けラウンジとなる。芝園キャンパスに建設された新校舎の上層階は、学生が楽しく過ごせるスポーツ施設となっており学生に十分に活用されている。

### ⑦社会と密接な関係を築いていく大学

- ・ 産官学融合センターが設置されており、本学における研究情報等の受発信基地としての役割を担うほか、本学の社会貢献の取り組み全般を調整し主導している。毎年開催される「産官学連携フォーラム」では、教員の研究成果として大学から特許申請した事例等が報告されている。技術情報振興会・附属総合研究所研究活動報告会の開催も研究交流として役立っている。
- ・ 同窓会、OB・OG 懇談会、本学 OB で技術士資格を持つ卒業生が中心となって設立された「千葉工業大学技術士会」等を通じて、本学 OB と学生との連携が進んでいる。
- ・ 毎年、公開講座を開催する他、一般市民に対して、運動施設や図書館の開放を行っている。また、平成 19(2007)年度まで現代 GP のプログラムにより教職員と学生が一体となった地域貢献が行われてきた。現代 GP による「地域と本学が連携したロボット産業の創発を目指したロボットコンテストとシンポジウム」では、習志野市商工会や市役所、他大学・専門学校・工業高校等との連携が実現した。
- ・ 県内の工業系大学 7 校と県内工業高校 11 校との間で相互協力に関する包括協定が締結されており、本学が高校教諭の研究会・研修会・先端施設見学会の場として利用され、高校の生徒が大学の授業を聴講する取り組みを行っている。
- ・ 小中高生を対象としたロボット解体ライブを全国 7 会場で実施したり、本学教員が講師となり、文部科学省・スーパーサイエンスハイスクール指定校の研修を行うなど、全国規模の講座を展開している。
- ・ ほぼ毎年実施されるアメリカ英語研修・学生親善交流訪中団、フランス・コンピュータ工科大学との協定に基づく交換留学等を通じて、国際交流を行っている。また、特色 GP（特色ある大学教育支援プログラム）関連として、バーレーン王国高度技術センターで本学が保有する「シミュレーターを用いたマルチメディア教育教材」の研修と移植のためのワークショップを行ない、ユネスコミッションとしての役割が大きく評価されている。
- ・ 個人情報保護・ハラスメント対策等の人権保護に関する全教職員を対象とする講習会を開催し、社会的責務を果たすことに努めている。また、「環境報告書」を作成し、環境にやさしいキャンパスづくりを目指している。